

# 山形教区報

発行 天理教山形教務支庁 〒 994-0027 天童市桜町 11 番 1 号  
 TEL 023-656-8420 FAX 023-656-8425  
 編集 広報部 E-mail y\_kohobu@yahoo.co.jp

立教 187 年

4 月号

第 161 号

## 令和 6 年 能登半島地震

### 災害救援ひのきしん隊 山形教区隊 出動

教内では本年元日に発生した「令和 6 年 能登半島地震」に際して、被災地への救援態勢を整えると共に、災害救援ひのきしん隊（災救援）でも素早く救援活動に着手。天理時報などでも既報の通り、特に被害の大きかった石川教区において給水活動や炊き出しを行うなど、懸命の救援活動を展開している。

山形教区では、1 月 4 日に災害対策委員会（森井昭司委員長）を開催し、本部からの出動要請に応えるべく、被災地への出動準備に取り掛かった。2 月 1 日には災救援山形教区隊（佐々幸雄隊長）に対し、災救援本部より第 8 次隊（2 月 8 日～11 日）として出動要請があり、これを受けて翌 2 日、教区災害対策委員会にて要請受諾を決定。直ちに出動準備を整え、2 月 8 日、総員 8 名の隊員が 2 台の乗用車に分乗し、被災地へ向かった。

同日夜、現地宿营地となった和洋菓子店「メルヘン日進堂」（石川県珠洲市）に到着した一行は、同店代表取締役石塚愛子さんより、遠方から救援活動に駆け付けてもらった感謝の言葉を頂くと共に、地震発生直後から現地が抱える厳しい状況についての説明を受けた。（石川さんが本部救援活動に協力した経緯は、『天理時報』3 月 13 日号に詳細が掲載されている）

第 8 次隊では、山形教区隊は主に炊き出し作業に従事。災救援本部の依頼などもあり、山形の郷土料理「芋煮」を提供し、避難所に身を寄せる被災者の方々に喜んで頂いた。

10 日には、珠洲市内能登半島先端にある天理教能洲分教会へ出向き、片付け作業を行った。同教会は海岸に近く元々周辺道路の道幅が狭い上に、津波で流されてきたがれきやゴミなどが散乱しているため車輛の進入が難しく、復旧に向けた初期調査にも支障を来すような状況にあった。隊員らは、行政から派遣された車輛などが駐車出来るよう、教会の隣家駐車場に堆積し

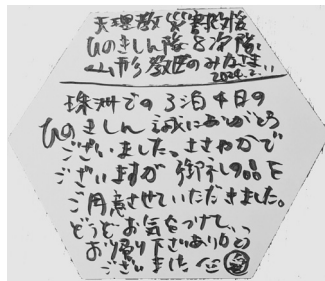
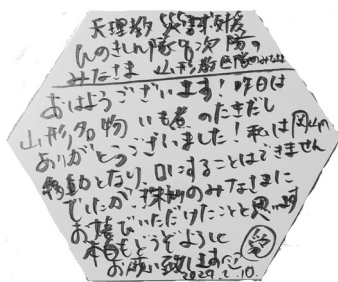
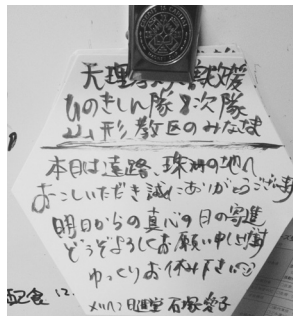


た大量の土砂、流れ着いたがれきやゴミを撤去した。

一方、3月7日から10日まで出動した第16次隊は、総員10名の隊員が3台の乗用車に乗り込み、宿営地の天理教石川教務支庁（金沢市）へ向かった。

7日夜に宿営地に到着した一行は結隊式を行い、橋本武長災救援隊本部長より、「一人ひとりの真実は、小さいながらも復興への歩みとなる」「被災された方に寄り添い、温かい心を持って救援活動をお願いしたい」と激励の挨拶を頂いた。

第16次隊では、主にブロック塀の解体のひのきしんを行った。激しい揺れにより、いつ倒れてもおかしくない状態のブロック塀に向かい、隊員達は細心の注意を払い、一日も早い被災地の復興を祈りながら、一つ一つ丁寧に活動に当たった。解体完了後には、被災者や現地関係者の方々より「解体してもらえてやっと安心した」「これでゆっくり眠ることが出来る」など、安堵と共に感謝と労いの言葉を頂いた。



# 春の学生おぢばがえり

山形教区学生担当委員会（松本真委員長）では、3月26日より29日までの4日間、春の学生おぢばがえり（春学）団参を実施し、現地合流も含めて学生6名（高校生1名、大学生5名）、担当者3名の計9名が参加しました。

26日朝、山形教務支庁を出発し、20時過ぎにおぢばに到着。今年には青森、岩手、宮城、山形の4教区の学生達が同じ宿舎に宿泊し、同一日程で行動することとなりました。

翌27日は、他3教区の学生達と顔合わせを行い、ゴミ拾いゲームなどのレクリエーションを通して、交流を図りました。午後からは、北海道・東北ブロック交歓会「ほくほく東北」に参加し、他教区の学生達と親睦を深めました。夕づとめ後には、「春の夜祭」に参加しました。

28日は、式典前に学生3名が別席を運びました。本部中庭で開催された式典では、真柱様から頂戴したメッセージが披露（代読）され、年祭に向けての日々の通り方をお示し頂き、学生達は真剣な表情で聞き取っている様子でした。また、同世代の学生会員が発表した「歩み」にも、頷きながら話を傾けていました。式典後は、各直属に分かれて、「直属アワー」に参加しました。

最終日の29日は、早朝におぢばを出発し、16時頃に無事山形教務支庁へ帰着しました。学生達は、諸行事や他教区の学生達との交流会にも積極的に臨み、大変有意義な春学となったようでした。

報告者 鈴木 真・米沢支部担当者



## 春の学生おぢばがえり参加者の感想

◆僕は、今回の春学を通してこれからの目標を決めることができました。今回の春学でまた友達をたくさん作って楽しく過ごすことができました。また、今日の真柱様からのメッセージを聞いて、自分についてもう一度振り返って、その見つけた課題を高校までに直して立派なようほくほくになることができました。

昨日の春FesやBARタイムでたくさんの人と交流を深めることができ、人と関わることは大切だと思いました。来年の春学も学生成人目標を意識して参加したいと思いました。

（高1男子）

◆私は、今回の春学でかなりの経験と人脈を広げることができました。式典では、改めて教祖の事を知れたり、真柱様からのメッセージの中からたくさんの事を学ばせていただきました。また、今回は別席も運ぶことができました。今回は、自分自身をかなり育てることができたので、また参加したいと思いました。

（大1男子）

◆私は、春の学生おぢばがえりへの参加は、今回で2度目となるのですが、今回は他の教区との合同で、多くの友達と楽しく過ごすことができました。中でも印象に残ったのは、「ほくほく東北」と「BARタイム」でした。今まで、東北の他



教区との繋がりはあまり無かったのですが、色んな交流行事を通じて同じ年代の人達とはしゃげて笑顔前線を押し上げることができて良かったです。

そして、交流会「BARタイム」ではスタッフのカッコイイマスターと共に、みんなでジュースを囲んで楽しく話したり、ゲームをしたりできて、ゆっくりと仲間の新しい一面を知ることができました。改めておぢはは、色んな場所から、多くの人達が集まって、親睦を深めることができる場所だと感じることができました。おぢばにかえる喜びを同じ学生と共に味わえる最高のイベントでした。

(大2男子)

◆今回の春学は、2度目の春学でした。前回の時も一緒だった人もいて、前回よりも気持ち軽めで参加できました。その為、周りの人と話すことができ良かった。春Fesにみんなで参加した際は、協力しあったり、競いあったりして、普段の生活では、そのような人がいないので新鮮でした。夜もロケタイムから遅くまで、人狼ゲームをして楽しみました。28日は、別席を受けたり、式典に参加したりしましたが、一番印象に残ったのは、道の学生の歩みで「僕はハッピーマンです。」の話で、出会いに支えられたというところにとても感動しました。

(大1男子)

◆私は今回おそらく7回目の春学でした、初めての東北合同参加ということで、少し不安と緊張がありました。合同と言えども思っていたより人数が少なくてどうなることやらと思っていました。心優しい人たちがばかりで、のびのびと過ごさせて頂きました。

東北は学生会に対してあまり積極的な印象がなかったのですが、同じ東北の中にも活気ややる気に溢れた人もいて、色々な行事の中で沢山話ができて親交を深めることができ、良い経験になりました。

春学には日本各地のお道の学生が集まるため、なかなか会うことのできない友人と再会できるところが良い点だと思います。また、自分の意外なところで色んな人と繋がりがあつたり、人と人との繋がりの素晴らしさを再認識させてくれるものだと感じました。

私は山形教区特有の身内感あふれる雰囲気に参加するのが大好きでしたが、東北の仲間と一緒に参加して関わりの輪を広げるのもいいものだなと思えました。

お道の学生であることを自覚して、残りの学生生活を楽しんでいこうと思います。

(大4女子)



【訃報】

佐藤ミヨ子氏 余目分教会四代会長(北洋大)が3月14日、出直された。享年93歳。鶴岡田川支部

教務支庁日誌

1月

4日 主事会 教区例会

災害対策委員会 学担例会

中央支部例会

2月

2日 主事会 教区例会

3日 災救隊例会

6日 中央支部例会

8日~11日 災救隊出動

能登半島地震 珠洲市

3月

1日 布教部例会

2日 主事会 教区例会

婦人会例会 災救隊例会

6日 中央支部例会

7日~10日 災救隊出動

能登半島地震 志賀町

26日~29日 春の学生おぢばがえり

30日 山形楽奏総会